

別記

令和5年度調査書作成上の注意

1 作成にあたって

- (1) 作成にあたっては、所定の様式に基づき、必要事項を記入した調査書原本を1部作成する。ただし、志願先高等学校名欄には記入しない。
- (2) 志願先高等学校に提出する調査書については、前記(1)で作成した調査書原本の複写により作成し、志願先高等学校名を記入するとともに、中学校長の職印及び記載者の印を押すこと。
- (3) 誤記訂正の場合は、訂正箇所に記載者の印を押し、訂正すること。
- (4) ※印の付してある欄は、中学校において記入しないこと。
- (5) 記入する必要のない欄又は記入事項のない欄については、斜線（右下がり）を引くこと。
- (6) 記載事項は、令和4年12月末現在の内容とすること。
- (7) この「令和5年度調査書作成上の注意」に示すもののほか、必要に応じて県教育委員会教育長から示される作成上の注意点に基づき作成すること。

2 各欄への記載にあたって

(1) 志願先高等学校名欄

志願先高等学校名、学科名等を記入する。

(2) 学籍の記録欄

ア 氏名については、生徒指導要録の氏名を記入する。

また、性別の欄には、男女いずれかの字句を記入する。

イ 平成、令和、入学、編入学、卒業見込及び卒業の字句は、それぞれ該当するものを○印で囲む。ただし、編入学の場合は、欄外に編入学前の学歴（海外で在籍していた学校名、期間等）を略記する。

また、2回以上にわたって転学した者については、転入学の欄を分割して使用する。

(3) 各教科の学習の記録欄

各教科とも、中学校学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、3段階による観点別の評価（A、B、C）及び5段階による評定を記入する。ただし、第3学年の観点別の評価及び5段階による評定は、第2学期までの評価・評定とする。

なお、二学期制の学校にあっては、第3学年の評価・評定は、三学期制の学校に準じて、同時期までの学習状況に基づく評価・評定とする。

過年度卒業者については、各教科の学習の記録欄については生徒指導要録から転記し、総合所見及び諸活動の記録欄については原則として在学中の第3学年の12月末までのものを記載する（ただし、卒業後2年以上が経過し、在学中の第3学年12月末での記録がない場合は、指導要録の転記とする。）。

各教科の学習の記録について、中学校学習指導要領に示す目標に準拠した評価でない場合は、小計※欄の左余白にその旨を記載する。

(4) 総合的な学習の時間の記録

ア 学習活動の内容欄

総合的な学習の時間に当該生徒が行った学習活動の具体的な内容を記入する。

イ 活動の状況及び所見欄

総合的な学習の時間の指導の目標や内容に基づいた評価の観点において、学習状況等に顕著な事項がある場合の特徴や、活動によって生徒が身につけた技能や能力についての特徴及び所見について記入する。

(5) 総合所見及び諸活動の記録欄

ア 特別活動等の記録欄

中学校3年間を通じて、特別活動等における所属について、生徒指導要録の特別活動の記録等に基づいて、活動学年とともに記入する。具体的な記入にあたっては、次の例を参考に簡潔に記載する。

(ア) 学級活動

学級活動については、生徒の活動の実態に応じて、主な係活動を記載する。

(例) ○○係など(1年)、▽▽係(2年)、□□係・△△係(3年)

(イ) 生徒会活動

委員会の所属については、委員会の名称と活動学年を記載する。生徒会本部役員については、「生徒会本部役員」と記載し、併せて活動学年を記載する。役職等の記載は必要に応じて行動の記録及び所見欄に記載する。

(例) △△△委員(1年)、○○○委員(2年)、□□□委員(3年)

生徒会本部役員(2年)

(ウ) 学校行事等

学校行事等における活動に関する委員や係などの名称と活動学年を記載する。

(例) ○○祭実行委員(3年)

修学旅行学習係(2年)

(エ) 部活動

部活動の所属については、部活動の名称と活動学年を記載する。部長等の役職及び活動の実績の記載は必要に応じて行動の記録及び所見欄に記載する。

(例) ○○○部(1～3年) △△△部(3年)

イ 行動の記録及び所見欄

中学校3年間を通じて、学校生活全般にわたる具体的な事実をもとに、生徒の特性や長所等についての所見を記入する。

3 その他

他の都道府県の中学校を卒業した者又は卒業見込みの者等についても、本調査書の様式により作成すること。